

○「第8回三河大島いかだレース大会」in蒲郡

7月1日、蒲郡市の竹島ふ頭と三河大島を往復する約7kmのコースで競われる「三河大島いかだレース大会」が開催されました。この大会は三河湾に浮かぶ無人島「三河大島」の利権を巡り、蒲郡市内各地区から一斉に船を漕ぎ出し競い合った「しまとり話」に由来して開催されており、今年は34チームが参加しました。

波も風も穏やかで格好のいかだ日和の中、スピード重視のハイテク部門では、「みやび・わ」が47分59秒の好記録で総合優勝。いかだの形状に制限を設けた一般部門においては、「三谷南山丸」がハイテク部門に迫るタイムで部門優勝。竹のみで浮かぶクラシック部門は片道3.5kmで争われ、「川東C」が勝利を獲得しました。



竹島を通過



スタート！

レース参加者のいかだが海上で激しいレースを繰り広げている間、竹島ふ頭では小型いかだによるミニタイムトライアルレースが行われ、子供から大人までたくさんの方がいかだレースを体験しました。午後からは、200mのタイムトライアルレースが行われ、「チーム宝栄会」が1分を切る驚異的な記録で優勝しました。

次回大会に、当事務所からも参加できたらと思い見学に訪れたのですが、予想を超える参加者の気迫に圧倒されてしまいました。



～イベントのお知らせ～



アクアフェスタ2007

7月29日（日）9時～13時

7月29日（日）、豊橋市上下水道局及び豊川周辺にてアクアフェスタ2007が開催されます。今年のイベントは、クイズラリー、アクア〇×クイズ、リバーウォーク豊川、にじますつかみどり、簡易水質測定、三河湾浄化コーナー等です。参加には事前申し込みも必要なものもありますので、詳しくは、広報とよはし7月1日号、もしくは、下記の問い合わせ先まで。

イベント場所：豊橋市上下水道局及び豊川周辺
（下記の地図参照）
問い合わせ先：豊橋市役所河川課（0532-51-2535）

※イベントにより開催時間が異なります。
※天候により内容の変更または中止の場合があります。
※なるべく公共交通機関をご利用ください。
豊橋駅から豊橋鉄道市内線にて約10分の東八町で降りていただき、そこから北へ徒歩約10分です。



豊橋市上下水道局のマスコット「クリン」

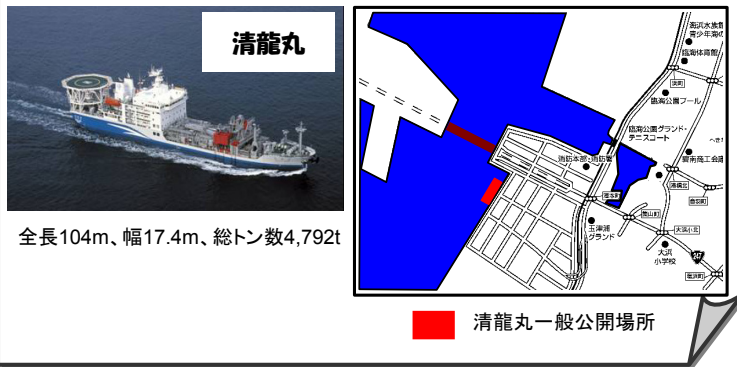
清龍丸 一般公開 in 衣浦港

8月4日（土）10時～15時

8月4日（土）、衣浦港重要港湾指定50周年を記念して、国土交通省所有の浚渫兼油回収船「清龍丸」が衣浦港で一般公開を行います。
「清龍丸」は平成17年4月に建造された国内最大規模の浚渫兼油回収船で、衣浦港には初めての来港です。一般公開（10時～15時）は参加無料で、どなたでも船内を見ることが出来ます。またとない機会ですので、ぜひご覧ください。

イベント場所：衣浦港中央ふ頭東岸壁
（下記の地図参照）
一般駐車場：玉津浦グラウンド
問い合わせ先：衣浦港重要港湾指定50周年記念事業実行委員会事務局（0569-21-2451）
碧南市役所建設部土木課工務港湾係（0566-41-3311）

※気象状況などにより中止になる場合があります。



全長104m、幅17.4m、総トン数4,792t

清龍丸一般公開場所

2007年7月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所より～



Mini-WANとは

三河港湾事務所で従来から発行している季節広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

○三菱自動車、三河港蒲郡地区からの輸出好調

○みなとオアシスがまごおりオーブンイベント

○蒲郡のみなとを考える意見交換会開催

○三河港関連事業計画等説明会開催

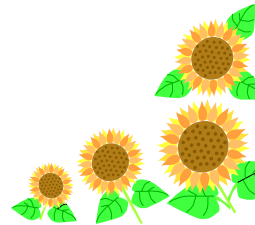
○衣浦振興会総会開催

○防波堤工事進捗状況

○「第8回三河大島いかだレース大会」in蒲郡

■イベントのお知らせ ・アクアフェスタ2007 ・清龍丸一般公開in衣浦港

☆CONTENTS☆



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

日本ではなかなかメジャーなスポーツになりませんが、学生時代から社会人を通じ、アメリカンフットボールを続けていました。関西ではとても人気があり、関西学生代表決定戦では甲子園球場が埋まったこともあります。それ以外の地域では今ひとつというのが実情です。

今月、ワールドカップが日本（神奈川県川崎市）で開催されましたが（今回は第3回。日本は第1回、第2回の優勝国！）、残念ながらメディアの注目度も人気スポーツの扱いには及びませんでした。

学生時代は教室にいるよりもグラウンドにいる方が長かった、という誉められた生活ぶりではありませんでしたが、勉学では得られない有形無形の財産を得ることができました。苦楽をともにした仲間というのは素晴らしいもので、学生時代のチームメイトはもちろん、社会人チームのメンバーとの集まりは、職場のとはまた違った楽しい時間を過ごせます。また、違う職種の人とも接することで視野を拡げることもできます。先日、この三河でも、アメフト愛好家の方々とご一緒できる幸運な機会に恵まれました。

9月から1月までの間、NHK-BSで本場アメリカのプロの試合が中継されますので、みなさまも是非一度ご覧になって頂き、その魅力に触れてみて下さい。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

○三菱自動車、三河港蒲郡地区からの輸出好調

世界トップクラスの自動車取扱量を誇る三河港において、三菱自動車の輸出が一時停止しておりましたが、昨年１２月２９日の輸出再開以降、順調な回復を見せています。蒲郡地区から主に北米方面に向けて、昨年度は約８，０００台の輸出が、今年度は約３８，０００台の輸出が見込まれています。三菱自動車岡崎工場においても生産計画台数が１６０，０００台と平成１８年度実績と比べ約２倍になるなど、三河港蒲郡地区にも活気が催されています。

○みなとオアシスがまごおりオープンイベント

６月９日、蒲郡市民会館東ホールにおいて、みなとオアシスがまごおりの認定記念プレート授与式及びオープンイベントが関係者約１２０人参加のもと盛大に開催されました。授与式では国土交通省中部地方整備局の佐原光一副局長から金原久雄蒲郡市長に認定プレートが渡され、山本明彦衆議院議員、杉田元司衆議院議員、鈴木克昌衆議院議員、梅山和成国土交通省港湾局振興課長、湯山芳夫愛知県建設部長の５名から来賓祝辞がありました。



パネルディスカッション

○蒲郡のみなとを考える意見交換会開催

６月１４日、蒲郡商工会議所において、蒲郡のみなとを考える意見交換会が開催されました。意見交換会は、蒲郡市及び（特非）ヨットエイドジャパンが主催し、渡辺具能衆議院議員（国土交通副大臣）、小林功愛知県議会議員、小林康宏蒲郡市市議会議員、金原久雄蒲郡市長、福祉団体の関係者等が出席し、今後の蒲郡のみなとの方向性などについて話し合われました。

○三河港関連事業計画等説明会開催

６月２０日、豊橋市役所の１３階講堂において三河港関連事業計画説明会が実施されました。最初に、特別講演として名古屋税関豊橋税関松村支署長より三河港での税関の役割についての説明があり、続いて三河港の整備に関する今年度の事業計画について、当事務所塩田所長、愛知県三河港務所神田所長、企業庁三河港工事事務所小杉所長が説明を行いました。説明会では、立見者もいる程多数の参加があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



船積みの様子



認定記念プレート授与

シンポジウムでは、中部地方整備局の宮本卓次郎港湾空港部長が基調講演『港のにぎわい』を行い、みなとオアシスが市民のための交流拠点であるとともに災害時の生活支援機能など防災拠点でもあることを説明しました。続いて、パネリストに総合ポートサービス㈱山口皓三社長、蒲郡商工会議所小池高弘副会頭、総合科学㈱中西敬海域環境部長、当事務所塩田所長を招いたパネルディスカッションが行われ、みなとの賑わいについて意見交換が行われました。



渡辺具能衆議院議員



H19年度事業について説明する
三河港湾事務所 塩田所長

○衣浦港振興会総会開催

６月２８日、碧南商工会議所において、衣浦港振興会総会（会長：内田榮一半田商工会議所会頭）が開催され、港湾計画事業の推進や衣浦港重要港湾指定５０周年関連事業等を柱とした平成１９年度の事業計画が承認されました。冒頭、黒田昌司前衣浦港振興会長から、脱「利用促進重点港湾」に向けて、衣浦港の重要港湾における位置づけを高める努力を引き続き行う必要があると挨拶がありました。また、総会後には、中部地方整備局の宮本卓次郎港湾空港部長が「港湾行政の動向と衣浦港の今後について」をテーマにした記念講演を行い、港湾行政の変遷・現状等を説明した上で、衣浦港並びに中部地域の港湾における課題・向かうべき方向性についての提唱を致しました。



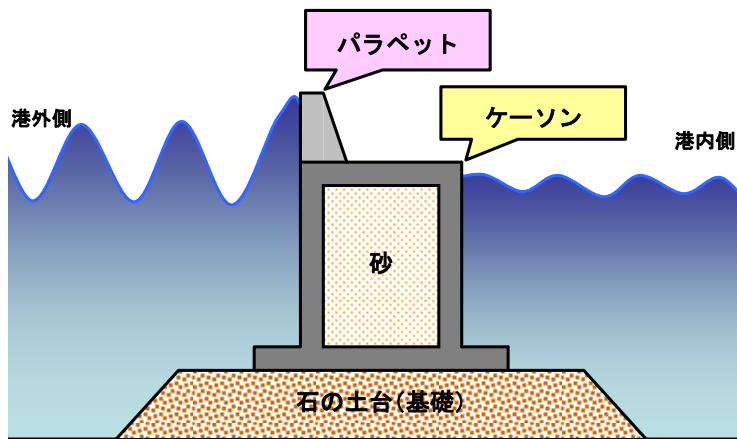
黒田昌司前衣浦港振興会長



宮本卓次郎港湾空港部長

○防波堤工事進捗状況

三河港では、船が安全に停泊できるように防波堤の整備を進めています。その中で規模が一番大きい防波堤（北）の紹介をします。防波堤（北）の整備は平成１５年度以降一時休止していたのですが、約５年ぶりに工事を再開しました。防波堤（北）は石で造った土台の上に、ケーソンという浴槽のような形をしたコンクリートでできた箱を置き、おもりとなる砂を入れ蓋をし、その上にパラペットと呼ばれるコンクリート製の波返しを載せて完成します。パラペットを造る工事については、防波堤が、陸から約２ｋｍ離れた場所にあるので、ホッパーと呼ばれる入れ物に固まる前のコンクリートを詰め、船で防波堤まで運び、クレーンのついた船でパラペットの形をした型枠の中に流し入れます。コンクリートが固まるときに接着剤の役割も果たし、パラペットとその下のケーソンが一体となることで波の力に抵抗できるようになります。



防波堤（北）の断面図

防波堤の本体部となるケーソンについては、豊橋市明海町にあるケーソンヤードで造っています。防波堤（北）のケーソンは、１つが幅５．９ｍ、長さ９．０ｍ、高さ６．５ｍ、重さは約２３０ｔにもなります。下から３段に分けて造り、現在、一番上の段で作業しておりますが、安全には十分な注意が必要です。７月末まで作業が続きますので、無事故無災害で完了できるよう心掛けて参ります。今回造ったケーソンは、今年の秋から冬の工事で沖合まで運ばれ、防波堤としての役目を果たすことになります。ケーソン運搬の様子は、また紹介します。

